

『ちよっと探訪』では、知る人ぞ知るちよだの魅力に迫ります。第16回は、三井住友銀行が手がける「金融ミュージアム Otemachi」をご紹介します。



今や学習指導要領でも必修化している金融経済教育ですが、当然、我々大人は受けていません。中高生が授業の一環で訪れることも多い施設ですが、学校で学んでいない大人こそ必見! であると感じました。まず現れるのが、「知の柱(モノリス)」。日々のニュースでも見聞きするようなワードがさまざま並び、タッチすると関連するテーマが次々現れ、「金融」が世界のあらゆる事象とかかわっていることが実感できます。

「Financial Missions」はぜひ試したいコーナーです。貯める・借りる・育てるという3つの金の使い方を、ゲーム形式で体験できます。簡単にはクリアできないような、絶妙な難易度にこだわって制作されたのだとか。本物のお金で失敗するわけにはいきませんが、ゲームなら思い切って挑戦できますね。



▲大人(筆者)も思わず真剣勝負

オープンは2015年。当時、今ほどキャッシュレス決済が浸透した世の中を予測できたでしょうか。ミュージアムといえば歴史を学ぶイメージが強いですが、ここは“今”を扱う博物館。金融という日進月歩の主題を常に更新しながら提供してくれるのは、企業博物館の強みと言えるでしょう。金融の最前線である大手町という立地を生かし、企業の垣根を超えた連携も行われています。取材時にも、日本銀行金融研究所 貨幣博物館や東京証券取引所 東証Arrows、さらに三菱UFJ信託銀行 信託博物館とセットで巡るスタンプラリーに挑戦中の方がいらっしゃいました。これだけ充実した設備をそろえ、頻繁なアップデートを行いながら、入館無料で土日も開館。今さら聞けない金のイロハと今を学びに、気軽に立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

- ① 知の柱:モノリス
- ② 具体的なサービスを例とした解説は、銀行が手がけるミュージアムならではの
- ③ 大阪市指定有形文化財になっている大阪中央支店をバーチャル見学

INFO

〒100-0005 千代田区丸の内1-3-2
三井住友銀行東館 ライジング・スクエア2階
[開館時間] 9:00-18:00
*年末年始は休館、その他不定休あり
<https://museum-of-finance.com/>

DanDan 読者アンケート

皆さまのご意見・ご感想をぜひお聞かせください。アンケートフォームよりご回答いただき、九段生涯学習館 1階受付でメール画面をご提示いただいた方には当館オリジナルグッズをプレゼントいたします。※先着順/なくなり次第配布終了となります



DanDan Vol.41

Focus on ちよだ:もう一度、ちよだにピントを合わせる



街中を歩いていると現れる、不思議な形をしたアートたち。ここは丸の内の仲通りを中心とした「丸の内ストリートギャラリー」だ。定期的に作品を入れ替えながら、身近なアート鑑賞を目的としている本ギャラリー。ぜひDanDan片手に「散策」という形のアート鑑賞を提案したい。



《私は街を飛ぶ》2022年 舟越桂 >>> 写真上3点・左
《眠りながら語らい、歌う》2025年 山本桂輔 >>> 写真下4点

伝統と革新、文化にスポーツ、この地にさまざまな魅力があることはご存知のはず。でも、身近で大切なものは、つい日々の喧騒の中で忘れてしまうもの。この冊子を通して、足元にある学びにカメラを向けてみませんか?

[特集]
街中の芸術「丸の内ストリートギャラリー」
[ちよっと探訪]
金融ミュージアム Otemachi

街中の芸術「丸の内ストリートギャラリー」

DanDanのスタッフが実際に見て感じたことをいくつかピックアップしました。私たちのコメントを参考にしつつも、最後はみなさま自身で感じたことを書き留めてほしいと願っています。全部で17作品展示されています。ここで紹介されている以外の作品もぜひご覧ください。

＼不思議な立体感は一見現地では味わえない！／



《小さな魚を大事そうに運ぶ女の子と金ピカの空を飛ぶ青い鳥》2022年
中谷ミチコ

＼頭の上に何か乗っている？／



《私は街を飛ぶ》2022年
舟越桂

＼木の肌感をじっくり見てほしいです！／



《Whirling Journey》2025年
中村 萌

＼石でできた虫なら間近で見ても怖くない？／



《Symbiosis (共生)》2025年
佐藤 正和 重孝

＼映り込む歪曲した街並みが神秘的です！／



《凹凸のブロンズ》1989年
レナート・ホフライト

Q. なぜ丸の内の中心でアートを展開しようと思ったのですか？

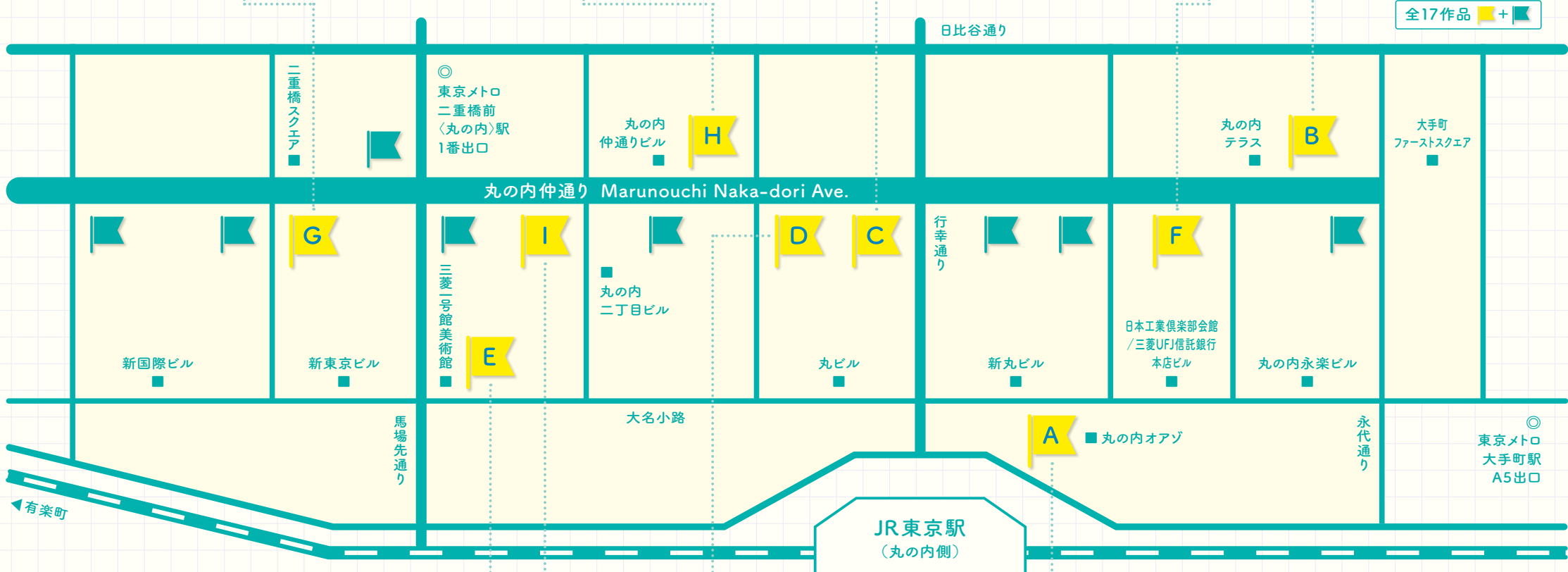
A. 千代田は政治・経済・文化の中核として、多様な人々が行き交います。その中でアートはこれらの背景を超えた共通言語となり、都市に文化的な奥行きと余白をもたらします。そしてストリートの中にあるということ、通勤・散策といった日常の延長にアートがあることで、自然に知的好奇心が刺激されることが、この取り組みの大きな価値だと考えています。

—— 三菱地所株式会社（主催）
エリアマネジメント事業部 丸岡さん

Q. 屋外のギャラリーと美術館の違いは何か？

A. 美術館は“その作品を見たい”という目的があつての鑑賞ですが、パブリックな場のアートは偶然の出会いであり、日常の延長にあります。そして季節・時間帯・天気によって様相が絶えず変化し、二つとして同じ写真を撮ることはできません。いつ、どう見るかは皆さんの自由です。アートの見方なんて今は分からなくていい、好きか嫌いかでいいので、アートを通して自分自身と対話してほしいですね。

—— 彫刻の森芸術文化財団（監修）
東京事業部 坂本さん



＼どこから見る？見る場所によって雰囲気が変わります！／



《羊の形(原型)》1971年
ヘンリー・ムーア

＼色あざやかで表情豊かです！／



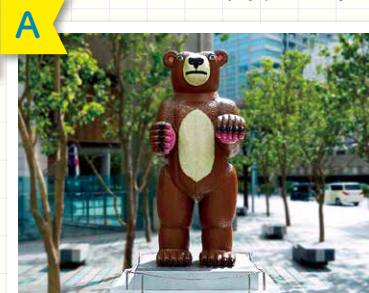
《眠りながら語らい、歌う》2025年
山本桂輔

＼同じポーズを取って撮影する人が多い！／



《Trans-Double Yana (Mirror)》2012年
名和晃平

＼想像の3倍は大きい！圧倒されます！／



《Animal 2017-01-B2》2017-19年
三沢厚彦

取材こぼれ話

買い物帰りなどに良く立ち寄っている丸の内仲通り。キッチンカーでドリンクなどを買って、木陰のベンチで小休止するのがお気に入りです。丸の内ストリートギャラリーの作品は見る度に新鮮で、そのときどきで表情も違って見えるのです。2025年7月に入れ替えた7作品もいずれも超個性的。細部までじっくり観察したくなり、見飽きることがありません。そしてずっと不思議に思っていたこと。“なぜ、いつも綺麗な状態を保っているのだろう”取材で尋ねたところ、月1回、高圧洗浄機のシャワーを浴びているのだそう。なるほど。もう一つ、長年にわたり、大切に守られ今日に至る奇跡。坂本さんによると、「全国から同じようなギャラリー設置のオファーは数多あるが、ここ丸の内は三菱地所さんをはじめとするみなさんのエリアマネジメントあってこそ。唯一無二のストリートなんです。」さらなるほど！となりました。